

医原技21発第46号
平成21年6月5日

各 位

(財) 医用原子力技術研究振興財団
理事長 森 亘
(公印省略)

第13回「医用原子力技術に関する研究助成総合報告会」 開催ご案内の件

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

当財団の活動につきましては、種々ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、掲記「医用原子力技術に関する研究助成」につきましては、当財団設立の趣旨に基づき事業活動の一環として、平成8年度より実施致しておりますことはご高承の通りでございます。

原子力技術を用いて行われる粒子線等によるがん治療を初めとする各種疾病の診断・治療、薬剤の開発、放射線照射技術等の進歩により、診療成果は順次向上しております。しかし、関係者の熱意ある努力にもかかわらず、診断・治療研究の実施や製薬技術の開発に当たっては未だ多くの障害や困難を抱えており、これらの手法について今後一層の改善と進展が期待されております。このため、高度先端技術である医用原子力技術に関する研究の推進を図り、その研究並びに若手研究者を支援する目的として、本研究助成を実施致して参りました。

この度、平成20年度に行われました医用原子力技術に関する研究助成対象者の方々にご参加頂き、第13回医用原子力技術に関する研究助成総合報告会を開催いたす運びとなりました。尚、当日は国立がんセンター、がん予防・検診研究センター長 森山 紀之氏に「大腸がんの診断と治療」の題目で特別講演をいただきます。

つきましては、別紙開催計画のご案内をお送りいたしますので、多数のご参加をお願い申し上げますと共に、関係者に対し周知方を、何卒よろしく願いいたします。

敬具

第13回「医用原子力技術に関する研究助成総合報告会」

第13回（平成20年度）「医用原子力技術に関する研究助成総合報告会」

1. 主 催： 財団法人医用原子力技術研究振興財団
後援（予定）： 文部科学省・厚生労働省
2. 日 時： 平成21年7月3日（金） 13:00～16:50
3. 会 場： 航空会館 201会議室
住所：港区新橋1-18-1 電話：03-3501-1272

4. プログラム：

開会挨拶 (財) 医用原子力技術研究振興財団 理事長 森 亘

- 座長 佐々木 康人 日本アイソトープ協会常務理事
- 13:05～14:05 I. 悪性腫瘍の治療における融合画像に関する研究
- 1) 「融合画像を用いた恥骨弓干渉の評価—前立腺癌
密封小線源永久挿入療法における有用性の検
討」 慶応義塾大学医学部
放射線科学教室
助教 深田 淳一
 - 2) 「 ^{18}F - α -methyl tyrosine (^{18}F -FMT) PET と MRI の融
合画像を利用した放射線治療の高精度化に関す
る研究」 群馬大学医学部附属病院
放射線部
助教 有坂 有紀子
- 14:05～14:35 II. 定位放射線治療の適応拡大に関する研究
- 1) 「定位放射線治療の適応拡大に向けた MR による
3D-Dosimetry の精度向上に関する研究」 徳島大学医学部
診療放射線技術学講座
准教授 久保 均
- 14:35～14:45 休憩
- 座長 井上 俊彦 大阪大学名誉教授
- 14:45～15:45 III. NCT に用いる新規化合物の有用性の評価法に関する研究
- 1) 「未修復 DNA 二重鎖切断可視化を利用した BNCT
生物効果の評価法の確立」 京都大学原子炉実験所附属
粒子線腫瘍学研究センター
助教 菓子野 元郎
 - 2) 「適応疾患拡大を目的とした新規ホウ素キャリア
ーの開発と有用性評価」 学習院大学理学部
教授 中村 浩之
- 15:45～16:45 特別講演「大腸がんの診断と治療」 国立がんセンター
がん予防・検診研究センター
センター長 森山 紀之

閉会挨拶 (財) 医用原子力技術研究振興財団 常務理事 平尾 泰男